教員の資質能力向上に係る特配（ＣＴ特配）活用推進事業の報告書

明和町立明和西小学校

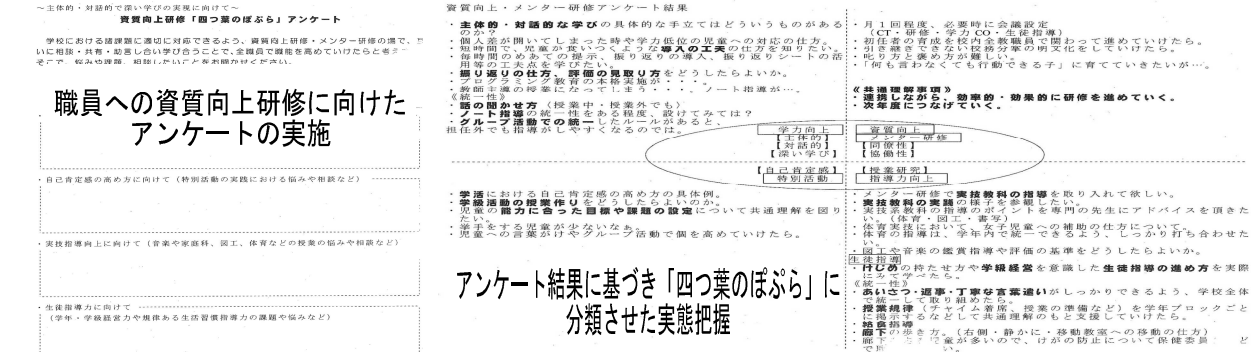
## １　取組の概要

### （１）「四つ葉のぽぷら」を活かした研修の充実

研修主任・学力向上コーディネーター・生徒指導（教育相談）主任・CT の４名の各主任が連携し、それぞれの視点から、「児童の生きる力の育成」「教職員の資質・能力の向上」を達成するための取組を「四つ葉のぽぷら」とし、研修の充実を図った。

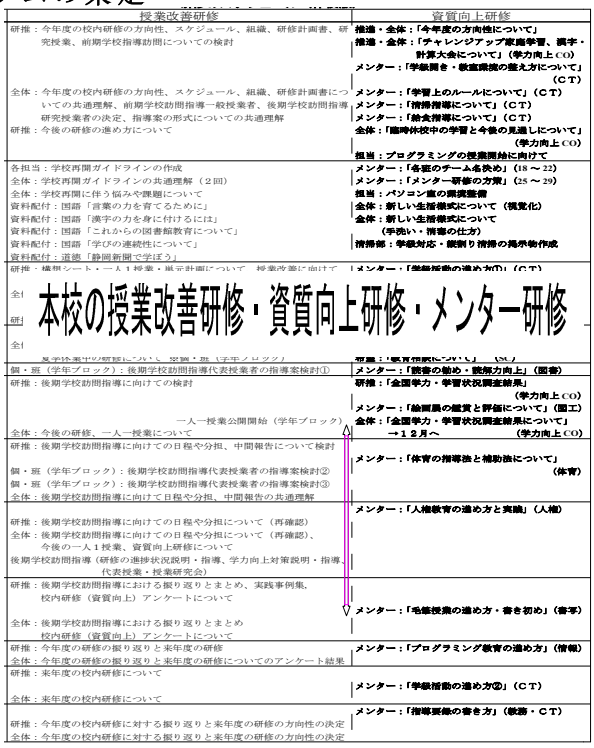
#### ①教員として身に付けるべき主な資質能力の実態分析

研修主題「自らの考えをもち、多様な考え方を生かして、主体的に学ぶことのできる児童」の実現に向けて、学習面・生徒指導面・特別活動の取組に関する悩みや課題に答えるアンケートを実施し、教職員の必要感に応じた研修となるように計画した。




#### ②教員の資質能力の向上に係る研修カリキュラムの策定

校内研修主任や学力向上コーディネーターと連携して、教員の資質能力向上に係る校内研修を計画した。授業改善研修と資質向上研修にバランスよく取り組んできた。

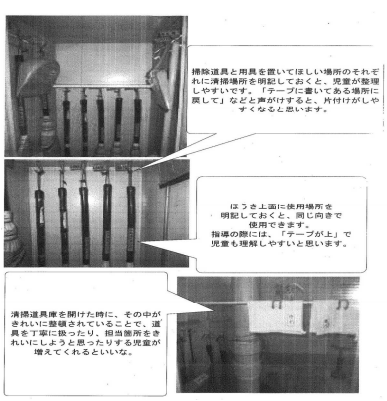



#### ③メンター研修の活性化

メンター研修主任や初任者研修担当教員と連携し、若手教員の資質能力向上に係る研修を計画し、研修内容の指導助言をした。若手の教職員と経験豊富な教職員で情報交換がしやすくなるようチームを３つに分け、各チームにチームリーダーを置いた。研修内容をメンター研修主任が事前にチームリーダーと打合せ、チームリーダーを中心にチームごとに取り組んだり、合同で取り組んだりしてきた。各研修内容にあたる主任（道徳や書写、体育、情報など）が、メンター（講師）となり、チームリーダーと連携を図りながら、本校の実態に合った研修を進めてきた。

### （２）学年・学級経営の充実

生徒指導主任と連携し、児童支援委員会の内容を検討し、委員会における指導助言をした。各学年・学級のよいところや掲示物の工夫を CT 通信で教職員に発信し、規律ある生活習慣・人権教育の充実及び学級経営の充実を図った。

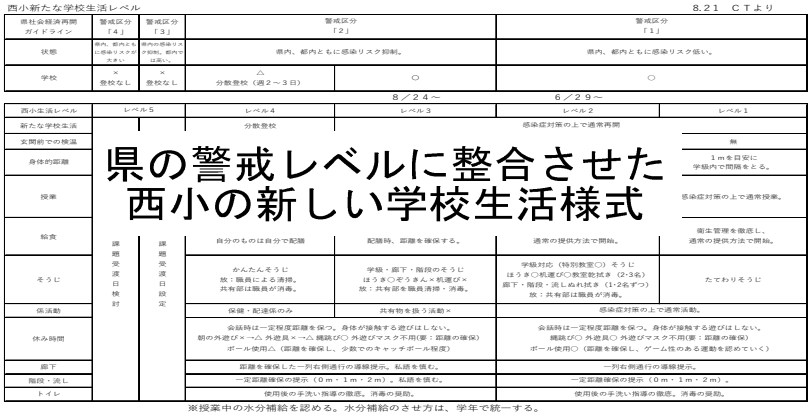


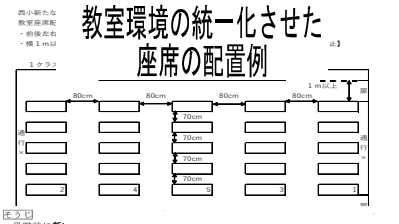
（３）示範授業の実施や参観指導等による効果の検証と情報発信

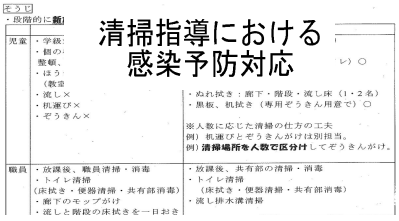
道徳や学級活動の授業改善に役立つ情報をこまめに流したり、各教室を回って掲示物の工夫などを紹介したりすることで、それぞれの分野で役立つ情報を共有し、教職員の資質向上に結び付けてきた。学級活動では、学校全体で掲示物を統一し、学級活動の仕方を共通理解することで、児童の自治活動を促進させ、自己肯定感・所属感を高めてきた。

（４）西小の新しい学校生活様式の整備

コロナ禍におけるイレギュラーな対応が求められる中、安全な学校運営をしていく上で、管理職や生徒指導主任、安全教育主任、給食主任、清掃主任などと連携し、校内の感染防止対策を提案してきた。また、全職員で共通理解をして感染防止対策や新しい西小の学校生活様式を実践してきた。




## ２　成果（○）と課題（●）

○学校評価の結果において、授業が分かり、楽しいと答えた児童が低学年で９５％、中・高学年で９０％、授業改善ができていると答えた教職員が８２％と成果が示された。CTの活動が、児童の学習面の向上と教職員の指導力向上の両面に寄与した。

○メンター研修において、若手教職員と経験豊富な教職員を３つの小集団に分けて情報交換の場を設定したことで、若手教職員が周囲の教職員と、より関わりやすい雰囲気をつくることができた。各研修内容にあたる主任がメンター（講師）となることで、メンバーの教師力向上だけでなく、メンターとしての職能成長を図ることができた。

○研修主題「自らの考えをもち、多様な考え方を生かして、主体的に学ぶことのできる児童」という視点から授業を参観し、全職員に向けて教師が意識すると良いポイントを紹介したことで、職員の意識改革を図ることができた。

○給食指導や清掃指導、教室の環境整備など、学級経営の取組を具体的に提示したことで、学校全体で統一が図られ、規律ある生活習慣を身に付けさせることができた。

●本校の特配教員の組織構想図「四つ葉のぽぷら」（校内研修・学力向上・生徒指導・CT）をイメージし、組織の中核として、情報交換しながら、組織的に活動してきた。職務内容の精選・明確化において、各主任と連携を図り、更に密に計画を立てる必要がある。

●学校全体で統一された学級活動を今後も継続していくために、話し合いのテーマの必要感の持たせ方、児童同士によるまとめをするための手立てを工夫していく必要がある。

●授業を参観されることへの抵抗感、参観する側の遠慮などがみられる。日頃から、教職員同士の情報共有を活性化させ、より授業を見せ合える組織作りが必要である。